

第 56 回 新潟県中学校総合体育大会 ソフトテニス競技上の注意

競技上の注意(団体戦)

- 1 競技は(公財)日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブック、大会要項及び大会要項付記に従って行う。
- 2 コート割り及び進行は別表のとおりとするが、本部の判断で変更することがあるので、放送には十分注意すること。2～3面同時展開で実施する場合もある。
- 3 選手変更がある場合、登録選手変更届(諸届様式 b)を用い、各校の監督が受付の際に大会本部へ直接届けること。なお、受付終了後の変更は認めない。
- 4 マッチは7ゲームとする。
- 5 小さい番号のチームが正審から見て左側のベンチに入る。ベンチに入れるのは登録選手及び監督または外部指導者(コーチ)どちらか1名とする。
- 6 試合開始時刻は原則、進行表どおりとするが、本部の判断により変更することがある。選手は時間を守ってコートに集合すること。進行状況によっては、コート変更や複数のコートに開いて実施することがある。
- 7 使用球は公認球(白色)を使用する。令和7年度は男子、女子ともにケンコーとする。(全国大会に準拠する。)
- 8 トスはコート上で、各対戦の前に行う。
- 9 円陣等を行ってもよいが、整列前に行い、進行の妨げにならないように配慮する。
- 10 3ペアの点取り対抗戦とし、2点を得たチームを勝ちとするが、1・2回戦のみ3対戦すべてを行う。
- 11 オーダー用紙(選手登録名簿通りに氏名を記入する)は、対戦相手が決まり次第、ただちに本部の受付に監督が提出すること。1回戦は代表者会議終了後、すぐに本部の受付に提出すること。
- 12 ベンチに入る監督またはコーチ、選手は必ず着席すること。次の対戦の選手は除く。
- 13 監督またはコーチがマッチ内に選手に助言する場合はルールを守って行う。チェンジサイズ時またはファイナルゲーム前に移動を含め1分以内とする。レッツプレーのコール後、動きがない場合は警告(イエローカード)を与える。事情により2～3面展開する場合は、監督またはコーチがベンチを移動して行う。インプレー中は監督またはコーチは移動しないこと。
- 14 異議の申し立てはできないが、質問等はチームの監督(コーチ)またはそのプレーヤーのいずれか一人が行うことができる。マッチに支障のないようにすることとし、異議申し立てとみられる態度や発言については、警告(イエローカード)の対象とする。
- 15 競技規則第15条(プレーヤーの心得)について
 - (1) プレーヤーはルール・マナーを尊重すること。また、過度のかけ声または相手を不快にする態度・発声は、インプレー中の発声を含め、警告(イエローカード)の対象とする。
 - (2) プレーヤーはアンパイヤーの指示に従い、マッチの開始から終了まで連続的にプレーすること。遅延行為に対しては警告(イエローカード)を与える。レディのコール後、助言を受けるためにベンチへ戻ったり、タイムを得ずにシューズの紐を縛り直したりする等の行為は、警告(イエローカード)の対象となる。
 - (3) 応援はプレーをスムーズに進行させるため、過度(審判のコールやプレーに支障が出る)にならないようにすること。相手を不快にする、他のコートに迷惑をかける等の応援をした場合、1回目は監督に説明し注意を促すが、2回目以降は監督の説明の後、警告(イエローカード)を与える。また、応援者を退場させることもある。
 - (4) 応援は、当該チームのベンチの後ろのみで行う。うちわやペットボトル、音の出る道具等は使わない。進行上妨げになると本部が判断した場合は、集団応援を禁止する場合もある。
 - (5) コート外の応援者(生徒、保護者)は自チームベンチ側で応援する。
- 16 熱中症対策のため、「チェンジサービス時及びファイナルゲームのチェンジサイズ時での給水」を認める。チェンジサイズ時に水筒等を審判台下に置いた選手のみ給水ができる。その際、打ち合わせなどを行わず、給水後速やかにプレーの準備をすること。また、ヒートルールを適用する場合もある。

競技上の注意(個人戦)

- 1 競技は(公財)日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブック、大会要項及び大会要項付記に従って行う。
- 2 コート割り及び進行は別表のとおりとするが、本部の判断で変更することがあるので、放送には十分注意すること。
- 3 個人戦の選手変更は原則認められない。但し、到着受付時にペアの1名が、けが・病気等で出場不可能になった場合に限り、選手変更願(諸届様式 c)を用い、各チームの監督が大会本部へ直接届けること。県専門部長の了解が得られれば変更を認める。
- 4 マッチは7ゲームとする。
- 5 小さい番号のチームが正審から見て左側のベンチに入る。ベンチに入れるのは登録選手及び監督またはコーチどちらか1名とする。
- 6 試合開始時刻は原則、進行表どおりとするが、本部の判断により変更することがある。選手は時間を守ってコートに集合すること。
- 7 使用球は公認球(白色)を使用する。令和7年度は男子:アカエム、女子:ダンロップとする。(全国大会に準拠する。)
- 8 トスはコート上で行う。
- 9 ベンチに入る監督またはコーチ、選手は必ず着席すること。
- 10 2ペア以上出場し、同時にマッチが行われている場合は、監督またはコーチが他のマッチに支障が生じないように移動し、助言することができる。
- 11 監督またはコーチがマッチ内に選手に助言する場合はルールを守って行う。チェンジサイズ時またはファイナルゲーム前の移動を含め1分以内とする。レッツプレーのコール後、動きがない場合は警告(イエローカード)を与える。
- 12 審判への質問はプレーヤーの一人が冷静に、マッチに支障のないようにすること。異議申し立てとみられる態度・発言については、警告(イエローカード)の対象とする。
- 13 競技規則第15条(プレーヤーの心得)について
 - (1) プレーヤーはルール・マナーを尊重すること。また、過度のかけ声または相手を不快にする態度・発声は、インプレー中の発声を含め、警告(イエローカード)の対象とする。
 - (2) プレーヤーはアンパイヤーの指示に従い、マッチの開始から終了まで連続的にプレーすること。遅延行為に対しては警告(イエローカード)を与える。レディのコール後、助言を受けるためにベンチへ戻ったり、タイムを得ずにシューズの紐を縛り直したりする等の行為は、警告(イエローカード)の対象となる。
 - (3) 応援はプレーをスムーズに進行させるため、過度(審判のコールやプレーに支障が出る)にならないようにすること。相手を不快にする、他のコートに迷惑をかける等の応援をした場合、1回目は監督に説明し注意を促すが、2回目以降は監督への説明の後、警告(イエローカード)を与える。また、応援者を退場させることもある。
 - (4) うちわやペットボトル、音の出る道具等を使った応援は行わない。また、声やリズムをそろえての集団応援は行わない。
 - (5) コート外の応援者(生徒、保護者)は自チームベンチ側で応援する。
- 14 熱中症対策のため、「チェンジサービス時及びファイナルゲームのチェンジサイズでの給水」を認める。チェンジサイズ時に水筒等を審判台下に置いた選手のみ給水ができる。その際、打ち合わせなどを行わず、給水後速やかにプレーの準備をすること。また、ヒートルールを適用する場合もある。